



東北大学

報道機関 各位

平成20年12月17日

東北大学工学研究科

作家・瀬名秀明と東北大学機械系が贈る 特別シンポジウム
『FLY TO THE FUTURE 100年先の未来をつくろう!』の開催について

2006年1月より、東北大学機械系は『パラサイト・イヴ』『デカルトの密室』などで知られる仙台在住の人気作家・瀬名秀明氏を特任教授に招聘し、100年先の機械工学を担う未来の若者へ夢を与える活動を精力的に展開して参りました。特任教授職に作家を招き、具体的なミッションを掲げたこの取り組みは、全国に先駆けた画期的な人事として大きな注目を集めました。2009年3月を以て瀬名秀明氏の特任教授職の任期は終了いたしますが、活動の集大成として、100年先の未来を皆で考え、創造する特別シンポジウムを開催いたします。

市民の皆様へ機械工学研究の最先端をご紹介すると共に、著名なゲストスピーカーをお招きして、科学/工学研究者と作家・クリエイターがひとつになって未来への夢を語り合います。ゲストスピーカーは、日本における認知発達ロボティクスの創始者のひとりであり、「ロボット分野におけるアカデミック・ロードマップ」策定の統括責任者でもある東京大学大学院・國吉康夫（くによしやすお）教授と、『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』『機動警察パトレイバー』など多数のロボットアニメで活躍し、現実のヒューマノイド・ロボット（HRP-2）の外装デザインも手がけるマルチクリエイターの出淵裕（いずぶちゆたか）氏。東北大学機械系からは、ロボット・航空宇宙・バイオ・サイボーグなどの研究者らが参加します。また会場では東北大学サイエンス・エンジェルに所属する女性大学院生らがボランティアで会場運営にあたります。

21世紀の科学技術の行方を見据え、未来への夢を考えるこのシンポジウムは、これから大学へ進学する高校生、大学院進学を考える大学1,2年生、知的好奇心の高い一般市民の皆様にとって素晴らしい〈知〉のひとつときとなることと存じます。ぜひお誘い合わせの上、ご来場を賜りますようお願い申し上げます。

記

日時 平成21年1月24日（土）13:00～17:00

場所 東北大学百周年記念会館 川内萩ホール 入場料 無料

総合司会 作家・東北大学機械系特任教授 瀬名秀明

挨拶 東北大学機械系系長 和田仁教授

第1部 スペシャルトーク① 東京大学大学院・國吉康夫教授

スペシャルトーク② クリエイター・出淵裕氏×瀬名秀明

東北大学機械系が夢見る未来 内山勝教授 山口隆美教授

第2部 東北大学機械系が夢見る未来 西澤松彦教授 永谷圭司准教授 河内俊憲助教

パネルディスカッション「イマジネーションが光速をこえる！」

【この件に関するお問い合わせ先】

東北大学工学部・工学研究科 機械系広報推進室 秘書 菊池 智美

TEL : 022-795-4043 E-mail : press@mech.tohoku.ac.jp

PC: <http://www.mech.tohoku.ac.jp/j/event/sena/>

携帯 : http://www.mech.tohoku.ac.jp/j/event/sena_m/

資料 瀬名秀明特任教授と東北大学機械系の取り組み

東北大学機械系は仙台在住の作家・瀬名秀明氏と共に、2006年1月より「100年先の「鉄腕アトム」の夢をつくり、発信する」ことをミッション（使命）に掲げ、これまで3年間にわたり全国に先駆けた活動を展開して参りました。

瀬名秀明氏はミステリー・ホラー・SF作家として、また卓越したサイエンスライターとしての業績が広く知られており、これまで生命科学、脳科学、人工知能、バーチャルリアリティ、ロボットなどの多彩な分野で著述を展開しており、また科学技術コミュニケーションにも熱心に取り組んでいます。東北大学機械系の特任教授に就任後は、作家としての創作ペースを落とすことなく、「未来を考え、大学と共に発信する」活動を繰り返し、その成果は科学と文学の垣根を超え、新たな科学技術コミュニケーションのロールモデルを創出するものとして大きな注目を集めて参りました。

以下に東北大学と瀬名秀明特任教授による3年間の活動の概要を列記いたします。また東北大学機械系を飛び出して、瀬名秀明特任教授が広く科学技術コミュニケーションに関わった顕著な成果についてもあわせて報告いたします。

【ウェブ展開】 「瀬名秀明がゆく！東北大学機械系」

・東北大学機械系の最新の研究成果や学生たちの想いを伝えるウェブサイト「瀬名秀明がゆく！東北大学機械系」を2006年2月より展開。瀬名特任教授自身が大学内の教員や学生らと語り、発信しています。外部の編集プロダクションに発注して作成した記事だけでなく、瀬名特任教授自身が執筆した記事も多数掲載。原則として隔週金曜日の更新。現役の人気作家がこれほど大学の広報活動にコミットした事例は全国的にも初めてのことです。

ウェブサイト「瀬名秀明がゆく！東北大学機械系」

<http://www.mech.tohoku.ac.jp/sena/index.html>

【自主活動】 自由闊達なゼミ活動を展開

・東北大学大学院の学生らと「未来を語る」自主ゼミを展開。課題となる図書やイベントなどをメンバーと共有し、その体験をもとに、各々の専門分野を越境して未来のビジョンを考えるユニークな活動です。現在まで10回を超え、その成果の一部はウェブサイトに公開されています。

ウェブサイト「瀬名秀明の課外ゼミ」

<http://www.senahideaki.com/seminar/>

【研究活動】 ヒトの知能を探る革新的プラットフォームを開発

・「国立情報学研究所グランドチャレンジ」にて2年間にわたり総額2000万円の予算を獲得し、人間とロボットの自然なコミュニケーションを実現するプラットフォームの開発をおこなっています（現在も進行中）。認知科学、発達心理、脳科学、複雑系、機械学習、文化進化など、多彩な分野の研究者が異分野融合

をおこない、ヒトに近い知能を実現するための求心力となる「社会的知能発生シミュレータ」(SIGVERSE: Socio Intelligenesis Virtual Environment Simulation Engine)を開発することが目的です。瀬名特任教授はプロジェクトの中心的なアイデアを提供し、研究顧問を務めています。主要な研究成果は2009年に公開の予定。

【創作活動】 東北大学機械系での協同成果を作品に

- ・小説作品 『第九の日』(2006、光文社)、『エヴリブレス』(2008、TOKYO FM 出版)
- ・絵本 『ぼくたちのロボット』(2007、福音館書店)
- ・ノンフィクション 『おとぎの国の科学』(2006、晶文社)、共著『境界知のダイナミズム』(2006、岩波書店)、共著『ミトコンドリアのちから』(2007、新潮社)、編著『サイエンス・イマジネーション』(2008、NTT 出版)、『瀬名秀明ロボット学論集』(2008、勁草書房) 共著『ロボットのおへそ』(2009 予定、丸善)
- ・科学エッセイ 医療コラム「イヴのみる夢」(2007〜、夕刊フジ)、航空エッセイ「大空の夢と大地の旅」(2007〜2008、小説宝石)、時事エッセイ「未来への周遊券」(2008〜、産経新聞)
- ・書評 朝日新聞書評委員 (2008〜)
- ・東京大学科学技術インタープリター養成プログラムの修了生らと「朝日中学生ウイークリー」紙において科学コラム「Science Pot」を展開 (2006〜)

【講演活動】 もっとも科学技術を語る現役作家のひとり

- ・年間約 50 回の講演を全国で展開 (以下はその一部)
- ・第 65 回世界 SF 大会において 5 時間にわたる特別シンポジウムの企画・コーディネート・総合司会を担当 (2007)
- ・理化学研究所・ゲノム科学総合研究センター10 周年記念講演 (2007)
- ・理化学研究所・脳科学総合研究センター10 周年記念イベントの企画立案に参加、シンポジウムをコーディネート (2007)
- ・日本学術会議「21 世紀を豊かに生きるための科学技術の智」シンポジウム 講演 (2008)
- ・「国際生物学オリンピック ハイスクールフォーラム In Sendai」講演 (2008)
- ・「工学教育連合講演会 魅力ある工学教育」特別講演 (2008)
- ・「東京大学科学技術インタープリター養成プログラム」シンポジウム 基調講演 (2008)
- ・「東北大学機械系フォーラム」「オープン講義」「東北大学オープンキャンパス」「東北大学サイエンス・カフェ」などにも積極的に参加し、講演をおこないました

【科学振興活動】 作家・特任教授の立場から科学振興を支援

- ・宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 宇宙科学評議会メンバー
- ・経済産業省「今年のロボット大賞」選考委員

- ・「知能ロボットコンテスト」審査委員 仙台市科学館にて毎年開催
- ・「PaPeRo アプリケーションチャレンジ in 仙台」審査委員長 せんだいメディアアテークにて開催

〔再録〕SF 作家 瀬名秀明博士の特任教授（SF 機械工学企画担当）就任に関する記者発表要旨「100年後を見据えた東北大学工学部の取り組み」（2006年1月発表）

このたび、東北大学工学部では100年後の機械工学の先端を担う子供たちの夢を創出することを一つの目標に、SF作家瀬名秀明博士を機械系の特任教授（SF機械工学企画担当）として招へい（06年1月16日着任）することになりました。

人の夢や希望を実現すべく、原理を考えデザインし具体的な形に作りあげるのが機械工学の基本です。現在のロボティクスをはじめとする機械工学の先端の多くは、少年の頃に手塚治虫氏によって示された鉄腕アトムを夢として追いかけた人達によって担われています。

本学工学部機械系では、100年先を見つめ、来世紀の機械工学を担う子供達が追いかけるための新たな「鉄腕アトム」を生み出すことに役立ちたいと願い、そのためには、小説などの創作を仕事とされる方の頭脳と先端的機械工学との融合の場を提供することが有効だと考えました。そして、機械工学の最先端を担う東北大学工学部機械系と、東北大学の薬学博士でかつ気鋭のSF作家、瀬名秀明氏との組み合わせは、その融合の舞台として最適のものと考え、今回の招へいの運びとなりました。

瀬名博士に期待している具体的な仕事は、機械系の研究者と学生およびその研究内容にできるだけ広く、深く接していただき、機械工学の先端を専門外の観点から判りやすく噛み砕き、広く一般の方々に紹介いただくことです。その仕事はSF作家としての瀬名博士の今後の創作活動のヒントとなり、子供たちの夢を育むようなメッセージとなり、さらに来世紀の機械工学の先端へとつながれば、私たち機械系の教職員・学生としても心躍ることだと考えています。

2006年1月17日 東北大学工学部

〔再録〕瀬名秀明特任教授の記者会見でのコメント要旨（2006年1月）

「私の理系の専門は薬学ですが、作家として、先端の科学や工学の研究者と接する機会も沢山ありました。そのなかで、科学や工学の進歩の形には、人の夢や希望として生まれた思いが、先端的な研究へとつながり、研究成果がひとつの形となり、それがまた次の先端研究へ繋がる夢を生むという螺旋を描いて進歩・発展を続けているように見えます。中でも、機械工学の発展の姿にはその螺旋型進歩の構造が具体的に明瞭に見えるように感じます。この度、東北大学機械系の特任教授（SF機械工学企画担当）という立場で、SF作家として22世紀の先端機械工学へと繋がる進歩の螺旋に参加できることは大変エキサイティングなことと感じています」

<http://www.mech.tohoku.ac.jp/sena/column/column-01.html>

以上

『パラサイト・イヴ』『デカルトの密室』の瀬名秀明と東北大学機械系が贈る
特別シンポジウム

FLY TO THE FUTURE 100年先の未来をつくらう!

ロボット・航空宇宙・バイオ・サイボーグ・環境知能の最前線

入場無料

日時：2009年1月24日(土) 開場 12:30~
13:00~17:00
場所：東北大学百周年記念会館 川内萩ホール

会場では関連書籍・グッズも販売!

SF作家と東北大学の手で新たな
「鉄腕アトム」の夢を発信!

100年の未来を見据えたミッションを掲げ、全国に先駆けて東北大学機械系は2006年1月に作家・瀬名秀明を招聘し、多彩な活動を展開してきました。その集大成となる〈知〉のビッグイベント。ワクワクする「未来の夢」をお届けします。

■ スペシャルトーク

1. 「ロボット、人間、情報システムの融合創発進化と未来社会」

東京大学大学院・教授

國吉 康夫 氏

認知発達ロボティクスの第一人者。
「ロボット分野に関するアカデミック・ロードマップ」の総合を担当。
ロマンあふれる研究が100年後をつくる!



2. 「アカルイミライ」

クリエイター

作家・東北大学機械系特任教授

出淵 裕 氏 × 瀬名 秀明



「機動戦士ガンダム・逆襲のシャア」「機動警察パトレイバー」のメカニックデザイン等、多数のロボットアニメや、イラスト・特撮分野で活躍する出淵裕氏が、仙台にやってくる!

■ 東北大学機械系が夢見る未来

- 「心か動く 人とロボットの未来」 …………… 内山 勝 教授
- 「バイオエンジニアリングの未来
— 予測できる将来と、想像もつかない未来 —」 …… 山口 隆美 教授
- 「ものづくりの未来
— バイオケミカルマシンの可能性 —」 …………… 西澤 松彦 教授
- 「フィールドロボット / 宇宙ロボットの現状と未来」 …………… 永谷 圭司 准教授
- 「飛行機は100年後飛んでいるか?
— 候とスクラムジェットエンジンと研究 —」 …… 河内 俊憲 助教

■ パネルディスカッション

未来への熱きメッセージ

「イメージネーションが光速をこえる!」

■ 川内キャンパス・案内図



* 駐車場には限りがございます。できるだけ公共交通機関をご利用下さい。

バス

- 仙台駅南9番のりばより「宮大・青葉台行」または「青葉通経由動物公園循環」に乗り、「東北大川内キャンパス」で下車(乗車時間約15分)徒歩3分
- 仙台駅南16番のりばより「広瀬通経由交通公園、川内(営)行」または「広瀬通経由交通公園循環」に乗り、「川内郵便局前」で下車(乗車時間約15分)徒歩7分

出淵裕氏が外表デザインを担当したヒューマノイド・ロボット〈HRP-2〉、東北大学機械系でも最先端の研究に利用されている



お問い合わせ/東北大学機械系 広報推進室 022-795-4043
<http://www.mech.tohoku.ac.jp/j/event/sena/>



東北大学

『パラサイト・イヴ』『デカルトの密室』の瀬名秀明と東北大学機械系が贈る
特別シンポジウム

FLY TO THE FUTURE

50年後、100年後の未来を考えてみよう。何をつくり、何を伝える？
未来を考えることはとても難しい。しかしそれは最高にワクワクすること —！
作家・瀬名秀明と東北大学機械系が、仙台の地で100年の未来をつくりま

2006年1月より東北大学機械系は『パラサイト・イヴ』『デカルトの密室』で知られる仙台在住の人気作家・瀬名秀明氏を特任教授に迎え、100年先の機械工学を担う未来の若者へ夢を与える活動を精力的に展開してきました。全国に先駆けたこの画期的なコラボレーションは、科学と文学の垣根を超えて大きな注目を集めています。

—100年後を見据えた東北大学工学部の取り組み—

このたび、東北大学工学部では100年後の機械工学の先端を担う子供たちの夢を創出することを一つの目標に、SF作家瀬名秀明博士を機械系の特任教授(SF機械工学企画担当)として招へい(06年1月16日着任)することになりました。

人の夢や希望を実現すべく、原理を考えデザインし具体的な形に作りあげるのが機械工学の基本です。現在のロボティクスをはじめとする機械工学の先端の多くは、少年の頃に手塚治虫氏によって示された鉄腕アトムを夢として追いかけた人達によって担われています。

本工学部機械系では、100年先を見つめ、来世紀の機械工学を担う子供達が追いかけるための新たな「鉄腕アトム」を生み出すことに役立ちたいと願ひ、そのためには、小説などの創作を仕事とされる方の頭脳と先端の機械工学との融合の場を提供することが有効だと考えました。そして、機械工学の最先端を担う東北大学工学部機械系と、東北大学の薬学博士でかつ気鋭のSF作家、瀬名秀明氏との組み合わせは、その融合の舞台として最適のものと考え、今回の招へいの運びとなりました。

瀬名博士に期待している具体的な仕事は、機械系の研究者と学生およびその研究内容にできるだけ広く、深く接していただき、機械工学の先端を専門外の観点から判りやすく噛み砕き、広く一般の方々に紹介いただくことです。その仕事がSF作家としての瀬名博士の今後の創作活動のヒントとなり、子供たちの夢を育むようなメッセージとなり、さらに来世紀の機械工学の先端へとつながれば、私たち機械系の教職員・学生としても心躍ることだと考えています。

2006年1月17日 東北大学工学部

※ 2006年1月に発行された、瀬名秀明氏の特任教授就任を伝えるプレスリリース

私たちのミッション(使命)は、100年先をつくる新たな「鉄腕アトム」の夢を生み出すこと。今回の特別シンポジウムは、市民の皆様へ機械工学研究の最先端をご紹介するとともに、著名なゲストスピーカーをお招きして、研究者と作家・クリエイターがひとつになって未来をつくる、集大成のイベントです。

東京大学大学院の國吉康夫教授は、日本における認知発達ロボティクスの創始者のひとり。そして出淵裕氏は多数のロボットアニメで活躍し、現実のヒト型ロボット(HRP-2)の外装デザインも手がけるマルチクリエイター。瀬名秀明氏の総司会のもと、東北大学機械系の精鋭研究者らとともに、未来への最先端ヴィジョンを語り尽くします。

「2050年までに、ロボットは、そしてロボットのいる社会はどう進化していきますか？」一般の人々にとって、これは夢のある、興味津々の問いだろう。だが、ロボット研究者にとっては他人事ではない。これは、「あなたの研究者としての一生をかけて何を成し遂げるのですか」と聞かれているに等しい。今の各世代の研究者の成し遂げることが今後の各年代の未来を創っていくのだから。

—東京大学大学院・國吉康夫 教授

21世紀の科学技術の行方は？ ヒトとロボットの100年後の関係は？ アニメや小説のイマジネーションは未来をどのように変えてゆくのか？ 夢だけでは終わらせない、本当の未来をつくるこの特別シンポジウムを、仙台発のすばらしい(知)のひとつときとして、ぜひお楽しみ下さい。



ウェブサイト「瀬名秀明がゆく! 東北大学機械系」では先端の研究成果から楽しいイベント報告まで、続々と最新情報を発信しています!

瀬名秀明がゆく!

検索

お問い合わせは 東北大学機械系 広報推進室 022-795-4043
このシンポジウムの詳細情報は、以下のウェブサイトに掲載しています。

<http://www.mech.tohoku.ac.jp/j/event/sena/>

瀬名 秀明(せなひであき)
1968年生まれ。『パラサイト・イヴ』で日本ホラー小説大賞を受賞、『BRAIN VALLEY』で日本SF大賞を受賞。近年は『ロボット21世紀』『ロボットオペラ』など科学技術と文化芸術を絡めるロボット学の著作を次々と発表、『デカルトの密室』など分野横断型の小説作品でも注目を集める。現在、東北大学機械系特任教授。2006年にプライベート・パイロットの免許を取得。

國吉 康夫(くによしやすお)
1962年生まれ。東京大学・情報理工学系研究科教授。ロボットが「コソ」や「目のつけどころ」を会得してゆく、実世界知能の理論とシステムの研究をおこなう。未来への深い洞察力を湛えたロマン溢れるその研究内容は、多くの人を惹きつけている。『ロボット分野におけるアカデミック・ロードマップ』の統合も担当。共著『ロボットインテリジェンス』で大川出版賞を受賞。

出淵 裕(いずぶちゆたか)
1958年生まれ。『機動戦士ガンダム逆襲のシャア』『機動警察パトレイバー』など多数のロボットアニメでメカデザインを担当して日本のロボット文化を切り拓いた。現実のヒト型ロボット(HRP-2)の外装デザインも手掛けるマルチクリエイター。初監督作品は『ラーゼフォン』。イラストでは『ロードス島戦記』、特撮分野では『仮面ライダーアギト』など著名作多数。

